第２回　宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

腫瘍センター事務局

平成２５年１１月９日（土）に第２回　宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院第２病棟６階カンファレンス室で開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、附属病院の職員の他にも、院外の医師、看護師、薬剤師、栄養士、ＭＳＷ、ケアマネージャー、訪問看護師の方々を含めて４２名参加されました。

当院の吉野茂文副腫瘍センター長の挨拶の後、各施設より事例提示があった後、ディスカッション形式で全体討議を行いました。

司会　山口大学医学部附属病院　松元満智子先生、結城美重看護師長

事例１：大学病院から緩和ケア病棟、在宅緩和ケアへ

「最後に在宅療養を選択し家族ぐるみで死を準備した事例」

山口宇部医療センター 緩和ケア内科　 片山英樹先生

宇部協立病院地域連携・在宅医療科　 立石彰男先生

事例２：大学病院から在宅緩和へ

「死を目前に控えても日々の生活に楽しみを見出せた事例」

山口大学医学部附属病院 第二外科　　　 渡邊裕策先生

ハピナース・エル訪問看護ステーション　岡田富士子先生

参加者からは、「患者さんの山大退院後の経過を聞けて良かった。患者らしい最期を迎えられるようにいろいろな人が力をつくしている現状にうれしく感じた」「たくさんの人に聞いてもらいたいような内容だった」「独居または、ご家族の支えがあまりない場合の緩和事例、一人暮らし、認知症の方の緩和ケア事例があれば次回取り上げて欲しい」など多くの意見が寄せられ、有意義な検討会となり無事終了することができました。

≪検討会風景≫



